

平成31年度地域ケアサービス推進事業報告書

障害のある人の社会参加について考える
～文化芸術をきっかけに～

はじめに

昨今、障害福祉サービスは制度上の充実をみせつつあり、様々な障害についての認知度も向上してきました。しかし、福祉制度のはざまに置かれている人たちや、その特性への理解が進んでいないことから福祉サービスが届きにくい状況にある方も少なくない現状にあります。その人たちはどのようなことに困っており、どのような支援を必要としているのか。社会福祉法人グロー（GLOW）が行う、地域ケアサービス推進事業（滋賀県補助事業）は障害特性による生きづらさやどのような支援を求めているのかを探り、モデル的な実践を行ってきました。今年度は、芸術鑑賞をきっかけとして、「高次脳機能障害」、「盲ろう」、「発達障害、軽度の知的障害」の方々の福祉ニーズを探る試みを行いました。文化芸術基本法に、文化芸術は「人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供」するとあります。文化芸術が持つこの効用を通じてニーズを知り、そのニーズへの対応を実践し、そのことを広めることでアクセシビリティ（※）の向上につなげていくという試みです。

また、同事業では滋賀県で活躍する実践者の実践や考えを「SHIGA-FUKU」というウェブサイトで発信しています。今回芸術鑑賞会の対象とした高次脳機能障害、盲ろう、発達障害の障害理解を深める意味でも、それぞれの支援に携わっている実践者のインタビューを併せて掲載しています。

本書は、支援者のみならず、今回の鑑賞会に関わっていただいた障害当事者の方々にも読んでいただけるよう、なるべく読みやすい内容、表現にも努めています。

誰一人取り残さない共生社会づくりに向けて、制度のはざまにある人の現状を知っていただき、社会参加のしやすさの向上につながることを期待しています。

※アクセシビリティ……この事業においては「社会参加のしやすさ」を示します

2020年3月

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～

法人本部企画事業部 ケアサービス推進課

平成31年度 地域ケアサービス推進事業報告書 目次

第1章 地域ケアサービス推進事業概要

(1) 目的と研究方法について	P.4
(2) 本書における「アクセシビリティ」について	P.4
(3) 「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」について	P.5

第2章 障害のある人と楽しむ芸術鑑賞会

第1節 高次脳機能障害の人と楽しむ芸術鑑賞会

(1) 高次脳機能障害について	P.6
(2) 鑑賞会の概要	P.6
(3) 鑑賞会実施までの流れ	P.7
(4) 鑑賞会の特徴	P.9
(5) 参加者の声	P.11
(6) 考察	P.12
インタビュー 佐藤有美（おさだファミリークリニック 医師）	P.14

第2節 盲ろうの人と楽しむ芸術鑑賞会

(1) 盲ろうについて	P.17
(2) 鑑賞会の概要	P.17
(3) 鑑賞会実施までの流れ	P.18
(4) 鑑賞会の特徴	P.20
(5) 参加者・通訳介助者の声	P.22
(6) 考察	P.24
インタビュー 久郷慶子（NPO法人しが盲ろう者友の会 理事）	P.26

第3節 発達障害・知的障害の人と楽しむ芸術鑑賞会

(1) 発達障害について	P.30
(2) 発達障害の人と楽しむ鑑賞会の概要	P.31
(3) 鑑賞会実施までの流れ	P.32
(4) 鑑賞会の特徴	P.33
(5) 参加者の声	P.34
(6) 知的障害の人と楽しむ鑑賞会の概要	P.36
(7) 鑑賞会の特徴	P.37
(8) 参加者の声（野洲養護学校高等部美術部のみなさんと楽しむ芸術鑑賞会）	P.38
(9) 参加者の声（信楽学園のみなさんと楽しむ芸術鑑賞会）	P.40
(10) 考察	P.42
インタビュー 松田裕次郎（社会福祉法人グロー東近江障害施設群管理者）	P.44

第3章 総括

佐倉武	P.48
石田瞳	P.49